「とぼしかる力寄せ合い続けきぬ」職場新聞

――六月十七日三川指導部で職場新聞まつり――

三川指導部の第五回職場新聞まつりは、別項の弥永善治さんの手記にあるように、今年も相変らずのにぎわいを呈した。まつりを迎えるのに、職場新聞発行に汗をしぼってきた一人の活動家は、パネルに「とぼしかる力寄せ合い続けきぬ七十一号迎えしわが職場新聞」の短歌をしたため、新聞づくりの並々ならぬ労苦とよろこびを語っていた。同指導部の職場新聞活動がますます発展することを切に祈っておく。

三川指導部の職場新聞まつり。展示された新聞はいつもより少なかったが、人はかえって多く大にぎわいだった。

来年への夢早くも……

実ったみんなの努力と準備

三川指導部の職場新聞まつりも今年五回目を迎える。過去一年間の職場新聞活動報告を出し合っての、交流の場である。

大変だったまつりの準備

職場新聞は、いうまでもなく勤務のかたわら、それぞれの分会が努力して発行し、組合員の声を率直に明らかにしてゆく。そして、問題点をみんなに広める重要な役目を持っている。それだけに内容はそれぞれになまなましいのが特徴で、いわば目に見えない大変な努力の結晶である。

職場新聞まつりは、今年から主婦会によるバザーコーナーを新設、各家庭に眠っている不要品の即売も行なうことにした。同じ仲間に買ってもらうものだけに、非常に安い値段で委託されている。

ところで、まつりまでの準備がこれまた大変であった。

会場にはいるとすぐやきとり、おでん、もろキュウリ、カンビールなどなどのコーナー。中央には職場新聞、三川指導部の日刊紙〝日刊みかわ〟なども参加、会場をぐるりと取り囲んで展示されている。

二階の会場には、まず中央に主婦会三川指導部のバザーコーナーが。それを盆栽、生花、絵画、書、写真、詩などの力作が囲んでいる。言葉を使わせてもらうならば、プロ級の作品展だ。

この会場づくりも、一番、常一番の人たち、坑外関係の仲間の協力で、また、やきとりやおでんづくりを引き受けた婦人部は、OBも参加して、土～日曜をつぶして大わらわだった。おかげで、準備はすべてが順調に進んだ。

どしゃぶりの雨も晴れて…

六月十七日（日曜）のその日、雨だ。朝から、どしゃぶり。

そのなかで午前九時から、記念囲碁大会を開催。出足はすこぶる好調。

分会対抗試合に、退職者の会も二チーム（一チーム三人組）が参加。熱戦の末、十六分会優勝。準優勝＝退職者の会。三位＝十二分会。四位＝二分会。試合後緊張もほぐれ、煙草の煙がゆらぐ。

そのうち、雨があがる。正午の開会に、出足好調。政治局員や組合関係の来賓、他指導部からも十数人の参加をみる。主婦会員もいれると百三十余人の参加なり。

そのなかで表彰式だ。田中順一実行委員長の挨拶で始まり、来賓の挨拶が続き、そして杉本一男実行委員の、批評をまじえての各職場新聞紹介。表彰には努力賞や〝がんばりま賞〟などがあって、ユーモアを織りまじえながらクライマックスへ。

席を改め、こんどは平田指導部長の音頭で、蔦被りをぶち抜いての乾杯。真新しい、風味ある酒がグググーッとノドもとを鳴らして流れこみ、五臓六腑にしみわたっていく。

クイズは、松野頼三元防衛庁長官収賄の五億円にあやかって、札束の額当て。「この札束は何億円か？」。おどろくなかれ、二億七千六百万円也のズバリ賞が二人も。正解者、小川紘志十六分会長と田中精一十二分会長。ちょっぴり、勘のよさを披露。

夢は早くも来年へと……

みるみるうちに、かたわらのやきとりやおでんが底をつく。「うまい」「うまい」の連発。一合マスを片手に持参しながら、一方の手でやきとりをつまんでいたり……。話、話、話。交流が続く。

職場新聞の交流。組合員仲間同志の交流。他指導部の仲間との交流。来年の職場新聞まつりに夢をふくらましながら、交流がいつまでも続く。

三川指導部・彌永善治記

会社の宣伝に負けぬ態勢を

要求は生活実態出し合って

本所指導部が〝春闘座談会〟

本所指導部は、六月十六日十人の職場分会代表が集って「七九春闘をふり返る座談会」を開いた。その新聞〝ほんしょ〟（六月二十八日発行）が座談会の模様を伝えたが、坑外労働者が春闘をどう見、またこれからどう闘おうとしているかを知るうえで参考となろうと思い、次にその要旨をお伝えする。

――春闘は、賃上げが一方百五十円、家族手当が千円と五百円のアップで終った。炭労では率として三・三六％、月額が五千四百円で、昨年を若干上まわったといっているが、坑外の私たちは三千円を少し上まわる程度でしかない。残業でもやれば賃上げに匹敵するので関心がないのではないか。

組合員　ほとんど反応がない。新労の諸君は、三～四時間の残業でもやれば賃上げに匹敵するので関心がないのではないか。

組合員　新労の諸君も職員も、関心は高いが口に出せないのだ。とくに職員には、一五パーセントの残業カットを含めた合理化が出ている。

組合員　ほとんどの家庭が共稼ぎであり、今後は各人の生活実態をとおして意見を出し、討論し合って要求額を決定すべきだ。

――具体的な闘いを通してのご意見を。

組合員　ワッペンについては、今年ははずせとの強制は見られなかった。ナメられているか、またはなんの影響もないと無視したか。

組合員　賃上げ闘争の場合、坑内の請負給の実態と、坑外の低賃金の実態を大胆に暴露すべきだ。会社の合理化の動きを的確に判断し、情勢とともに考え方を明らかにすべきである。

組合員　会社はこれからも、石炭の展望は暗く、閉山も早いかも知れない、と宣伝を強めておきえこみにかかるだろう。われわれはどんな宣伝にも負けない体制づくりで、生活できる賃金を闘い取らなければならない。

――今後、闘いをどうすすめていくか。

組合員　今回の炭労の柔軟戦術は評価してよいが、額面通りの評価は疑問が残る。

組合員　期末手当の要求は四十万円と聞くが、われわれには生活費（労働再生産費）としての期末手当であり、賃金と同じく生活に根ざした要求にすべきだ。

組合員　炭労各支部組合員同志の交流がされないものか。また炭労大会で、三池の現状を資料などに作製し、全代議員に訴える必要があると思う。

組合員　ともあれ労働者は、団結しなければ要求はとれない。そのつど闘いを総括し、闘い続けるほかないと思う。

新聞まつり雑詠

三川指導部職場新聞まつりの際に展示されていた、同指導部十三分会（大月照月分会長）の職場新聞〝あおぞら〟の展示コーナーに、「新聞まつり雑詠」として、作者不詳（多分編集委員の一人の町佳郎さんか）の短歌が紹介されていた。読むほどに襟をただしたくなる作品ばかりだったが、とくに心に焼きついた三首をここに紹介しておこう。

×

とぼしかる力寄せ合い続けきぬ
七十一号迎えしわが職場新聞

とつとつと続けてきたる発行に
実はとぼしくも足らう心は

稿寄らぬ時の空しさ発行の意義
疑いしこともありけり

かえうた・会社の金庫

みなさん〝メダカの学校〟の節で大いにうたいましょう

（一）

会社のもうけはクラのなか
そーっとのぞいて
見てごらん
そーっとのぞいて
見てごらん
エライさんがベロ出し
踊ってる

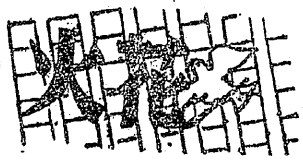
（二）

それでもエライさんが
いうことにゃ
貯炭だ、赤字だ、損ばかり
それぞれ働けがまんしろ
そこでみんながスーイスイ

――無責任野郎・作――

改めて教えられた労働運動の原点

宮崎　杉本良一



映画〝みいけの闘い〟のフィルム、遅くなりまして申しわけありません。

貴重なフィルム、拝見させていただきました。ふと忘れがちな労働運動の原点を、また、闘わなければつぶされる資本主義社会の実態を、映画は私に教えてくれました。

ややもすると教訓的になりがちな三池の闘いを、現実的に、歴史上の闘いでなく今も闘う組合の姿を見せていただき、感動しました。今後は貴労組の闘いを忘れることなく、闘う組合づくりを、闘う体制を構築していくため、微力ながら頑張りたいと思います。

貴労組の今後のご活躍と発展を祈るとともに、今後ともご指導、ご鞭撻の程をよろしくお願いいたします。

×

杉本さんは「宮崎県延岡市東本小路一三二―二三、県北労評内」の宮崎県北部地区青年婦人協議会の事務局長として活動されている人です。六月十七日〝第一回宮崎県北部地区文化祭典〟（延岡市大武体育館）で、映画〝三池の闘い〟が上映されたのに対し、右の感想を寄せてくださいました。今後ともよろしくお願いします。ともにがんばりましょう。